

[伊勢市会場]

1. 開催日時・会場

- ・ **日時** 平成14年11月9日（土）13：30～15：30、快晴
- ・ **会場** 伊勢市観光会館 4階 大会議室1，2

2. 出演者構成

- ・ **コーディネーター**
渡辺 悌爾 （三重大学人文学部長）
- ・ **地域づくり代表者**
石川 順子 （伊勢市在住）
今村 発子 （度会郡小俣町在住）
奥山 壽一 （度会郡大宮町在住）
島田 佳代 （伊勢市在住）
高島 信彦 （松阪市在住）
谷口 徹 （鳥羽市在住）
寺本 稔 （志摩郡大王町在住）
中村 貴司 （伊勢市在住）
- ・ **行政職員**
池田 豊人 （中部地方整備局企画部企画調整官）
武田 一寧 （中部運輸局企画振興部企画課長）
本多 隆志 （三重県南勢志摩県民局長）
- ・ **聴講者数**
計86名（男性71名、女性15名）
- ・ **会場風景**



3. 会議録

司会 定刻となりましたので、ただいまよりまんなかビジョン討論会を開始させていただきます。本日は、多数ご出席いただき大変ありがとうございます。私は、進行役を務めます国土交通省中部地方整備局の新村と申します。よろしくお願いいたします。

さて、中部地方整備局では、このたび中部の目指すべき方向を示す「まんなかビジョン」の中間取りまとめを行い、皆様から広くご意見を伺っています。この討論会は、その趣旨に沿って開催するものです。本日の討論会が、地域の実状を踏まえ実りある会になるよう、皆様の積極的なご発言をお願いいたします。

はじめに主催者を代表して、中部地方整備局企画部の池田企画調整官からご挨拶を申し上げます。

池田 今日は寒い中、大勢集まりいただき、ありがとうございます。昨日、国土交通省の扇大臣が小泉首相の前で、今後の社会情勢とか公共事業の方向性について発表しております。これまで道路や河川や港湾整備は、それぞれの計画に沿って進めていました。その計画は9つあるのですが、今回の発表の一番のポイントは、その9つを1つにまとめてしまおうということです。来年からそういう方向になります。

この趣旨は、いわゆる縦割り行政を何とか解消して横断的に、国民の皆さんが望んでいる目標を改めて作っていかうという試みになります。

この討論会も、その流れに沿うものです。まんなかビジョンという中部地域全体のビジョンを今作っていますが、その中により具体的な、今後目指すべき目標を作っていかうと思っております。このビジョンに対しては、色々な所から、言っていることはもっともだが具体的に何をするかよく分からないと言われていています。それをこれから直して行きたいと思しますので、是非色々ご意見をいただきますようお願いいたします。

それから、このビジョンには、三重、愛知、岐阜、静岡という4県の県境を越えて、4県が全体で共有できる目標を持ちたいという、もう1つの狙いがあります。ぜひ今日はそういう観点で、地元のことと合わせて、他県への要望や他県との共同事業についてもご意見をいただければと思います。

是非、建設的なご意見をいただきますようお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

司会 池田さん、ありがとうございました。

これから討論会に入りますが、ここからの進行は三重大学人文学部教授の渡辺先生にお願いしております。渡辺先生、よろしくお願いいたします。

渡辺 紹介をいただきました渡辺です。発言者として出席いただいた皆さんは、それぞれの地域で大変熱心に地域づくりに取り組んでいらっしゃる皆さんで、大変期待しております。

それでは最初に、本日の発言者の方々から簡単に自己紹介をお願いします。

石川 伊勢の石川順子と申します。市民のまちづくり団体「外宮にぎわい会議」で副会長をしております。伊勢市では「マスタープラン・バージョンアップ」の委員、県の推進事業では「伊勢志摩再生プロジェクト」の委員もさせていただいております。

今村 私は、小俣町の今村発子と申しますが、伊勢市や二見町でも活動に参加しております。

私は、伊勢市の「風景まちづくり条例」の策定委員と、男女共同参画のアドバイザーもしております。活動の母体は「伊勢の国 おかみさん会」で、街が元気になるように、いろいろと活動しております。

奥山 奥山環境デザイン事務所の奥山壽一です。出身は、宮川の50キロくらい上流の大宮町です。全国デザイン協会、森と村を守る会などで全国的な自然保護等の勉強をさせてもらっています。また、県の農林水産商工部のマイスターとして、市町村の活性化のアドバイザーをさせて頂いております。地域では、「宮川ルネッサンス事業」の民間団体の事務局をしております。

島田 伊勢市の島田佳代です。私は、「外宮にぎわい会議」とIT関係のNPO「伊勢コンビニネット」に所属しています。

高島 松阪市本町の高島です。歴史と文化をテーマにまちづくりに取り組んでいます。

谷口 鳥羽市の谷口徹です。鳥羽青年会議所と鳥羽旅館組合の理事長をしております。

私は鳥羽が、住む人にも訪れる人にも良い街になるように考えております。

寺本 志摩郡大王町の寺本稔です。建築設計をしております。私は、大王町が津波対策強化地域に指定されたことを受け、地震対策委員会の委員をしております。

中村 伊勢市の中村貴司です。木造住宅を中心とした建築業を営んでいます。

商工会議所の「まちづくり委員会」の幹事と伊勢市の「風景まちづくり条例市民会議」の委員をしております。伊勢が昔のように、もっと賑わいのある町になるといいと思っております。

本多 三重県南勢志摩県民局の本多です。当地域は、観光入込み客数が近年非常に落ち込んでおり、県民局としても何とか集客交流の促進を図りたいと考えております。それから、管内17の市町村のうち12市町村が東海地震の強化地域であり、防災対策にもしっかり取り組みたいと考えています。

武田 中部運輸局企画課の武田です。今日は、私も勉強させていただき、また観光客の立場からお話しさせていただければと思います。

池田 国土交通省の池田です。最近、車には非常に便利な社会になって来ましたが、一旦車を降りて歩き出すと20年前とあまり変わらず、むしろ人通りが少なくなった所が多い。これからは是非、賑やかに楽しく歩けるような、そういう気持ちよい町にしたいと心がけながら仕事をしています。

渡辺 それでは、発言者の皆さんに「私が考える地域」をテーマにお話しをお聞きます。

石川 外宮にぎわい会議についてご紹介します。伊勢神宮には外宮と内宮があり、内宮の方はお

はらい町等でかなり賑わっておりますが、外宮の方はちょっと寂しくなっております。それで外宮さんの方にも賑わいをとということで活動しております。

まず、手始めに街を歩いて、日頃は気が付かないものを発見したりして出来上がったのがこのマップです。それから、今日も楽市というものを外宮界限でやっております。他の団体と協力しあって、それぞれの力が結集されてこそ、まちづくりはできるものと思います。

近年、私どもの活動も自治体との協力体制でできるようになりました。そこに国の方でも、金銭的支援だけでなく、ビジョンや構想を立てる際にも私どもと協力しながら進めていただけることになり、中部地区もとても魅力的な場所になるものと思っています。

「まんなかビジョン」は、とてもすてきなネーミングだと思いますが、「ど」をつけて「どまんなかビジョン」にすると、また迫力がでるかなと思います。

この地区は、日本の縦と横の山脈が交わる場所ということで、地盤の関係で“気”が放出されており、歴史も文化もある地区ですので、やっぱりここを「どまんなか」として、世界に情報発信していくくらいの勢いがないと、ことが始まらないのではないかと思います。

国交省でもあり「みち」について考えたいと思います。道は、海から陸、陸から空へと広がりましたが、スピードを求める余り無機質な、冷たいものになったように感じます。物流が中心になってしまった道に、もうちょっと意味合いや味わいを加味しながら物語性をつけて、みんなの愛する道にすれば、生活道路でも違うものになるのではと思います。外宮の近くに「神路通り」がありますが、これは白馬に乗って神様が通られた道と聞いています。そうすると、その道が生きて来ます。今日、楽市が行なわれている神宮参道も、外宮の参道らしい風情を出しているといいなあとと思います。

それから、伊勢湾口道路の連携シンポジウムでは、渥美町の花いっぱい運動を活用して船に花をいっぱい乗せて鳥羽の方までつなげる「花の道」という夢のような話を聞きました。そういう道があってもいいかと思っています。

渡辺 ありがとうございます。道に味をつける、意味を考える、あるいはストーリーをみんなで考えていく。大変面白い発言だと思います。ロマンチック街道のような感じになるといいと思いますね。

今村 私たちの活動母体は「伊勢の国おかみさん会」と言います。但し、お客さんと直接接する商売をしているメンバーではありません。街が元気になるように、自分たちのできるところで活動しております。「味も匂いも伊勢の文化じゃないか」ということで、イベントがあると伊勢うどんフェアなんかも開いて、伊勢の街を好きになっていただくように活動しております。

また、風景まちづくり条例の策定を通じて、自治体と私たち市民が共同でいろいろな方法を見出しているところです。一つの目玉が、この8月にまちづくりの拠点施設として整備された川崎商人館です。これは、伊勢のマスタープランにも載っており、伊勢市では初めての公設民営施設です。まちづくり委員が運営も考える必要があり、皆さん頑張っています。

まちづくりでは、早い情報と人と人とのコミュニケーションが一番大切ですが、自分たちが楽しくやれば、街が好きになれば、きっといい街になるだろうということで活動しております。

渡辺 情報、コミュニケーション、楽しくという、元気なおかみさんの会の話をありがとうございました。

奥山 この飽食で使い捨ての時代、自分のやっている企画・構想・地域開発等を通じて考えますと、精神面の回復とか意識を持って行動することが本当に大切だというお話をさせてもらいたい。

地域の自然や歴史を、そこに住んでいる人が自負できるのかということ、この点について最近特に疑問を感じます。自分の住んでいる所を勉強してください、再発見してくださいというのが、今回の私の一番大きな意見です。

もう1点は、人は一人では生きていけない、大自然と周りのみんなの善意に生かされているという前提に立って事を起こせば、バランスの取れた事業になるということです。

宮川ルネッサンスという県の事業の民間団体に「宮川清流塾」があります。塾では、総務省の審議官をされております月尾嘉男先生に塾長になっていただき、大宮町また宮川流域の地域で定期的に、経済や政治や世界的な動き等、様々な分野についての話をしていただいています。それが我々塾生の大きな勉強になっています。また、宮川を師と仰いで、そこに学んだり遊んだりする中で、集いの中で何かを学んでいこうというのが宮川清流塾の事業活動の基本です。月尾先生の他にもいろいろな分野の方をご紹介いただき公開講座を開いたりする他、ゴミ拾いや宮川の伊勢から宮川村までの歴史探訪などをやっています。

それから、県の色々な方も参加されている「アクト宮川」という宮川清流塾の実行部隊を作り、宮川支流の河川工事では蛇籠積みという手仕事による石積みをしたり、県内外の家族や子供たちを集めて川の生物の勉強をしたりしています。こんな中から、人とのつながりや地域の活性化が見出せないかと思っています。

渡辺 ありがとうございます。宮川清流塾を中心とした活動をお話いただきました。意識、精神的にプライドの持てるような地域にするための勉強が大事だというお話ですね。

島田 では、「にぎわい会議」のご紹介からさせていただきます。外宮さんへ一人でも多くの人にお参りをさせていただくために、毎月ついたちの早朝に外宮さんでついたちお参り、ついたち句会、そして外宮さんの近くのフランス料理屋さんで朝食会を行なったりしております。それから、大きなイベントとして、8月1日に外宮さん浴衣でお参りという催しを開催しております。今年で5回目を迎えて、かなり認知度も上がってきましたが、今後はもっともっと県外からも多くの方に来ていただきたいので、一生懸命企画を考えております。

私は、にぎわい会議に入って今年で4年目ですが、こっちが発信しているつもりでも一般の方にはなかなか伝わっていないのが現状です。そこで、インターネットを活用して人々に地域情報を発信することによって人々の交流が盛んなまちづくりを図り、活力ある地域住民の生活向上に寄与することを目的とするNPOの「伊勢コンビニネット」が昨年設立されたのを機に、私もメンバーになりました。

伊勢コンビニネットのご紹介を少しさせていただきます。コンビニネットの軸は、地域のデータベースとホームページの作成、それとパソコンIT講習です。ホームページは、「いせネット」というページを作成し、地域密着の情報を掲載しております。

それから、やはり地域の方々がパソコンに触れないことには、せっかく発信した情報を見ていただけませんので、初心者の方を対象に各地域でパソコン講習を行なっています。そして、勉強していただいた方に、また教える人になっていただこうということで人材育成を行なっております。

す。

渡辺 早速皆さん、今日お帰りになったらホームページを拝見させていただきます。

高島 松阪でまちづくり等の活動をしています。松阪には、松阪肉、氏郷公、国学者の本居宣長、映画監督の小津安二郎というようにテーマが多々あると思います。そして、県のくにづくり宣言の中に街道文化創造部会というのがあります。私は、大きな意味で松阪の街道文化を中心に情報を発信していきたいと思います。

松阪市の本町には、昔の風情が残った所まだ多々あります。一番代表的なのは、三井の発祥の地であり、そういう古い街を保存しながら、自分たちの住む所の歴史を勉強しながらまちづくりをしていきたいと思います。特に、参宮街道を中心にまちづくりをしていきたいと思います。

まちづくりは人づくりという言葉があります。これは重要で、日本全国でネットワークを形成し、情報発信をする必要があります。さらに、中心市街地がドーナツ化現象を起こしており、これからの時代のニーズに合った開発を進める必要があります。

とりあえず今日のテーマとしては、歴史と文化の息づくということを提案したいと思います。

渡辺 ありがとうございました。

谷口 鳥羽市では、お年寄りに楽しく訪れてもらえるような、ハード面、ソフト面の整備をしてまいりました。しかし、人の気持ち少し置き去りにされてまちづくりが進められたような感じを受けております。住みよくない街には訪れる魅力がないというのが、私のまちづくりの基本的なスタンスです。私は、「自分が鳥羽に住んで何が誇りだろうか」といつも考えています。なかなか言いづらいですが、たくさんあるのは間違いない。

20年来、運輸省の時代から「鳥羽マリンタウン」という計画を進めていますが、バブル経済の崩壊とともに予算が縮小し、継続か中止かという議論をしながら、マリンタウンは住む人のためになっているのだろうか、いつも考えております。住む人のためになる、もしくは誇りになるものであれば続ければ良いと思いますが、ただ海岸を整備するだけのマリンタウンだったら、そんなお金は使わない方が良いのではないかと考えたりもいたします。

中部国際空港の整備に合わせて、鳥羽に海の玄関口を整備していただきたい。鳥羽に700万人、800万人というお客様が来ていたのが、今はもう500万人を割ろうという時代になっています。本当に必要なことだけを、やるということが一番大事だと思います。決して過去の経緯に捕らわれず、訪れる人に優しく、住む人に優しいマリンタウンとかまちづくり、道路づくりをしていただきたい。道路も、あって当たり前になりましたから、やはりスパイスの効いたものにしてほしいと思います。

渡辺 どうもありがとうございました。

寺本 私は、三重県が主催する伊勢志摩空間快適性向上委員会で、大王町の町並みを観光地らしく整備する、また漁師町らしいコミュニティーを作るという活動をしています。それから、これも三重県主催ですが、バリアフリーアドバイザー会議の鳥羽志摩の代表をしております。それから、伊勢志摩地域振興協議会という、これは志摩5町が中心ですが、真珠と志摩の食を中核とし

た地域おこし、地域活性化の提案をしております。それから、自転車で海岸線を走ることで、自然の美しさと健康のために環境を守るとことを認識していただくことを目的に、1年に一度サイクルマラソン鳥羽・志摩を開催しております。これには、北は青森から南は福岡まで約200名程度集まってくれます。

今日は、大王町の地震対策委員会の委員として出席しております。中部では、東海地震、東南海地震、南海地震が想定されています。中部地域には海拔ゼロメートル地域が広く分布しており、地震時の津波への対応が求められています。これは一民間人や一市町村でできることではないと思いますので、中部地震大綱というようなものが14年度中には法制化されるとも聞いてはおりますが、是非とも、まんなかビジョンの大きな柱として地震対策を位置づけていただければと思います。

中村 私は商工会議所のまちづくり委員会で、アクティブシニアのユートピア構想に携わっています。アクティブシニアとは、お子さんたちが独立した後、介護を受けるまでの元気な層を想定させていただいている。伊勢がその人たちにとってユートピアになれば、もっとたくさんの人が在住されるようになるのではないかとということで、会議所を中心にアンケートを取りました。そうしましたら、退職されてから社会に貢献したいとか就労したいという意欲がものすごく高いことが分かりました。そういう意識を酌ませていただいて、何か事業ができないかということで、今、3つの事業を考えております。

1つは、低料金の宿泊計画です。これは、団体旅行などの一般的な旅行ではなく、伊勢の街の日常に触れていただくことを目的としたもので、空き家対策も兼ねています。

それから、マラソンが好きな人が自然散策をしながらマラソンができるような道を計画するものです。この計画は、今、実際にプロジェクトチームを作って動き始めようとしているところです。

ちょっと話は変わりますが、内宮前のおはらい町はご存じだと思いますが、非常ににぎわいが出てきています。私が学生の頃は、随分さびれていましたが、おかげ横丁を作られて再生しました。街の再生は確かに素晴らしいのですが、何より私が素晴らしいと思ったのは、それに伴って沿道の家が古い町並みに合わせて直し始め、また子供たちが自分たちの街のああいう古い町並みを誇りに思いだしたということです。20年でそうなったわけですから、決して伊勢の街がそうなることでも不可能ではないし、当然そうなってほしいと思っています。

それから先日、赤福の浜田社長の講演の中で、俳句をうたえる街になるといいなという話がありました。伊勢らしい風景があると、俳句がうたえるのですね。多分、日本人のDNAの中にそれを感じられるものがあるのかなと思いました。

渡辺 ありがとうございます。それぞれの発言者のお話しは、是非、まんなかビジョンで生かしていただきたいと思います。

それでは、ここでまんなかビジョンについて、事務局から説明をいただきたいと思います。

司会 パンフレットにしたがって説明をさせていただきます。表紙を覧いただきたいと思います。私たちの住んでいる中部は日本のど真ん中、いわば日の丸弁当の梅干みtainな地域だと思っております。21世紀をおいしく食べるためには、この日の丸弁当に皆さんからの意見をいっぱい乗せて、幕の内弁当に変えていきたいと思っております。これは、21世紀を皆さんに考えていただく

ためのパンフレットだと思っていただけたらと思います。

1 ページには、ビジョンの見方が載っています。そこに、1～7 という赤い数字がついています。1 番では、7つの大きな目標として、中部の目指すべき方向を掲げております。2 番目のところは、その目標の意味を解説させていただいております。3 番目は、現在の状況や理想とするイメージをじっくり考えていただくために、写真を大きく入れております。4 番目は、その目標を実現しなければならない理由を解説しております。5 番目は、アウトカム目標を示しています。アウトカム目標とは、従来は道路を何キロ作りますというような、アウトプットをお伝えしてきましたが、これからは道路を作った結果としてどのような効果や成果が現われるか、サービス水準的な視点を示す目標としてアウトカムを表わしております。6 番目は、5 の目標がどれくらい達成できたかということで、事業を評価する数値目標や状況の変化の一例を示しております。7 番目のところは、我々の目標に対して皆様に考えてもらうための行動や方針を示しております。

次に、1 から 7 まで簡単に説明させていただきます。まず 1 番では、モノづくりなど産業の国際競争力の強化を目標として掲げております。2 番目の目標は、世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレードとしました。伊勢市も地域の拠点都市として伊勢志摩地域の発展のためにはアップグレードが必要だと思います。3 番目の目標は、東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大としました。私たちの日々の活動は交流によって成り立っていますが、既存の交流だけではなく新たな交流が必要ではないかということで掲げております。

4 番目の目標は、日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進としました。5 番目の目標は、中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興としました。6 番目は、誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現としました。7 番目は、東海地震をはじめとした地震に強い安全・安心な地域づくりとしました。

以上が 7 つの目標でございます。現在の目標や指標がすべてであるとは考えておりません。もちろん不足している部分や違っている部分もあると思いますので、今日は皆様のご意見をお聞きしながら、より多くの人たちが納得できるビジョンにしていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

渡辺 ありがとうございます。ご説明いただいたことについて、皆さんにアンケートを行ないたいと思います。

司会 今、説明しました中部が目指すべき 7 つの方向に対して、この地域が一番重点を置くべき方向性と思う番号を 1 つだけご記入下さい。それから、緑色の紙には、中部地域として一番重要と思われる番号を 1 つだけご記入下さい。

渡辺 アンケートの集計ができるまでに、私からこの事業に対する取り組み方とか内容について触れさせていただこうかと思います。

私は、ここに示された 7 つの目標に対して、ご出席の皆さんや地域の住民の方たちが、どの様に力を発揮していただけるのか、また、既に活動されていることをさらに発展させて行かれることが重要だと思います。これまで、地域づくり、国土づくりはほとんど行政任せでしたが、それが本当に良いことなのかを皆さんが考えるようになってきた。地域づくりを行政任せにする時代

は、20世紀で終わり、21世紀の地域づくりは、みんなで支え、みんなで知恵を出し、生活者のものの見方でもって地域づくり、あるいは社会資本整備をやっていくことが必要なことではないかと思います。この7つの目指すべき方向についての皆さんの考え方がアンケートから出てくると思います。

では、発言者の皆さんに、まんなかビジョンに対する期待、目指すべき方向、成果目標、成果指標、あるいはこの地域で何に重点的に取り組むべきかについてご発言をお願いします。

中村 最近よく道州制とか言われています。日本という意識が薄くなり、中部が一つの国として独立採算していくくらいの覚悟を持つことが大切かなと思います。その中の伊勢で、ぼくらはどうしたらいいのかということだと思います。北海道から沖縄まで日本全国みんな一つの法律ですよみたいな、そんな時代はもう終わったかなということです。

渡辺 大変大事なことだと思います。アメリカでは、州によって税金や法律が違います。日本も成熟国家になったのだから、南から北まで同じ法律で一律に規制されるのではなく、それぞれの持ち味を生かして、みんなの力を発揮できるような、そういう仕組みに変えていく。ドイツもアメリカも連邦国家で、地方が生き生きして持ち味が出ている。日本もそうなりたいという意味だと思います。

寺本 私の住む志摩郡大王町には、全国、世界に自慢ができるものとして、風光明媚な伊勢志摩国立公園自然と真珠があります。英虞湾で取れる真珠を中核に、私たちは伊勢志摩の地域おこしを今やっています。そして今、結婚30年の真珠婚式を伊勢神宮で挙げていただくという企画を進めています。新聞紙上で30組を募集したところ、県内だけで160組近い応募がありましたので、伊勢神宮と交渉して80組まで広げました。昔からお伊勢参り、一生に一度という話があったわけですから、これを文化として作り上げることができるのではないか。全国の真珠婚を迎えられた方に伊勢神宮へ来ていただけないかと期待しています。

それから、伊勢、鳥羽、志摩あたりは、もし大地震が起こると陸の孤島になる恐れがあります。そうしたときに何が大事かという、隣近所のお隣さんが一番大事になってくる。向こう三軒両隣というか、昔ながらのよさをもう一度取り戻す必要がある。これは観光でも共通で、日本全国あるいは海外から伊勢志摩へ来てくれたときに、何が大事かといったら、ハード面、ソフト面ありますけど、地域のもてなしの心というんですか、そういう人々の意識だと思います。それが地震災害のときでも、隣の人はどうかなという思い。こういうものを復活させることが、まんなかビジョンの一番精神的な部分、拠りどころになってくるのではないかと思いますので、提案させていただきます。

谷口 観光は、伊勢神宮や伊勢志摩、鳥羽という点を目指して旅行した時代から、途中の経路、道路、鉄道など線を整備して、今度は線を観光するようになりました。これからは、線が広げた面の観光をしなくてはいつも考えています。旅行から帰られて、もしくは訪れた後、その地域の人たちにお礼状が書けるような、そのような観光の整備も必要だと思います。

まんなかビジョンは、大きな枠組の話ですが、大きな枠組に当てはまらない小さな取り組みをたくさん積み重ねて大きな取り組みにしたいと考えております。地域の交流は、みんな考えていることもやっていることも住む人も違うということを忘れないでほしいと思います。

高島 まちづくりをする中で、人とのネットワークを作ることが非常に大切であると感じました。これからも推進していく必要があると思います。

それから、地域づくりではそれぞれの地域が特色を生かすという考え方がまず必要。また、中部圏を中心に考えた場合、三重県は半島として考えてもいいのではないかな。また、今回のまんなかビジョンは、4県1市を対象にしていますが、何故和歌山が入っていないのか。私としては、和歌山を含めたエリアで捉えたい。三重県が良くなるためには、名古屋を中心に三重県の良いところを生かしつつ、両地域を交通で結べば発展するのではないかな。

それから、地域づくりを進めるためには、やはり自分の住んでいる地域をもっと勉強することから始めるべきです。そうすれば、自分たちの地域を生かすにはどうしたらいいかという提案が出てきます。

島田 私は、ITを活用して情報を全国、世界に発信したとしても、それだけではまちづくりにはならないと思います。伊勢なら伊勢に人が集まってこそ、街も祭も活性化されると思います。そして、人が来るためには、やはり道がないと来られないということです。国土交通省さんには、活用できるいい道を作っていただけたら嬉しいと思います。

そして目的地では、その街が期待どおりのすてきな街であってほしいと皆さん思われると思います。そのためには、行政と市民が協力し合ってハード面、ソフト面を充実させて皆さんをお迎えしなければならないと思います。最後に、IT・情報、そして交通、おもてなし、この3つが一体となって人が集う街、住み心地のいい街ができるのではないかと考えております。

渡辺 ありがとうございました。情報と交通ともてなしの3つが大事だということですね。

奥山 まず、社会資本整備の基本は、大人も子供も、都会も田舎も同じ生活ができる権利があるということだと思います。その為には、例えば総合学習では地域住民との交流システムのようなものが必要ではないかな。そういうことが、社会資本整備の生活環境づくりだろうと思います。医療福祉では、どこでも誰でも同じサービスを受けられるようにするには、道路交通等のアクセスは絶対必要だろうと思います。そのサービスでは、NPOだけでなく郵便局も活用して独居老人のネットワークを作れば、これも一つの新しいネットになるのではないかなと思います。安全生活では、優しい心をもった地域づくりが必要と考えます。

また、これからの事業には自然型というのが大事だと思います。道は走るためだけではなくて、ゆとりある生活のためにもあるということを考えて作る必要がある。それには、道路や橋を整備するに当たって、環境デザイン、生活デザインを考慮すること。デザインでは、デイとサインに分けますが、サインというのは人間の意思や希望、夢をサインと言うそうです。デイは、それから離れるということで、現実化するというのがデザインだそうです。デザインというと、近代的な感じで受け取られますが、伊勢の古い町並みもすべてデザインです。木や石や葉っぱまでデザインだと思います。そんな中から、できる限り三重県のよさ、中部のよさ、日本のよさを道路の沿道にもいろいろ考えていくような道づくりをしていただければありがたいと思います。

今村 私はこれまで、この地域が自立することを目指すべきだと考えておりましたが、まんなかビジョンでは、それを広げて自分のところだけでなく、みんな一緒に地域を盛り上げていこうと

いう考え方を示されており、感動しております。

2千年の歴史がある神宮が位置するこの地域を考えると、伊勢志摩は唯一日本人の心の故郷として発信できる地域ではないかと考えます。この地を訪れたときに、温かさとか空間の快適性とか自然とか人の息づかいを感じられるような地域を目指したい。中でも、人が息づいて活動するということでは、NPOが育つべきだと常々思っております。NPOがほとんど育っていない。

NPOが健全であるためには、収益を得られる必要があり、その為には地域通貨システムや企業からの寄付に対する税制上の優遇措置について検討することが必要と思います。そうすれば、もう少し気楽にNPOを立ち上げることができて、地域が息づき環境も保全され、地域住民の意見もきちんと取り入れられた道づくりができていくのではないかと。

石川 どまんなかビジョンのグランドデザインについては、高島さんが示されたように、名古屋を中心に三重県を半島として捉え、歴史、文化を勉強しながら地域の特色を生かした、もてなし観光を活性化することだと思います。

伊勢志摩再生プロジェクトでは、まさにそういうことを目指して色々な事業に取り組んでいます。この間、竹中大臣が伊勢にいらっしゃったときに、伊勢志摩地域は観光特区になり得る場所だと言っていました。それを目指して、中部地区で外貨を稼ごうではありませんか。そのモデル地区になればいいと考えております。

渡辺 ありがとうございます。大変いい話を聞かせていただきました。

それでは、アンケートの集計が出ておりますので、事務局から説明をお願いします。

司会 アンケートのご協力ありがとうございました。結果の報告をさせていただきます。

母集団が88名です。88名の中で、伊勢地域に対する回答数を報告させていただきます。

1番のモノづくりなどの産業は3票でした。2番目の世界都市名古屋あるいは拠点都市のグレートアップは1票でした。3番目の東海環状都市圏・環伊勢湾は4票でした。4番目の日本の真ん中である優位性、東西軸、南北軸は6票でした。5番目の豊かな自然環境、歴史、文化は51票でした。6番目の誰もが生き生きとして暮らせるは12票でした。7番目の東海地震、南海地震等の災害に強い地域づくりは11票でした。その結果、自然、文化、観光が、51票で一番多くございました。

次に、中部地域を対象とした結果は、1番が16票、2番が7票、3番が14票、4番が26票で、4番が一番多くございました。5番が3票、6番が8票、7番が14票でした。以上のような結果でございます。

渡辺 この地域として重視するものは、歴史文化を生かした観光の地域づくりということで、そのとおりだと思います。先ほどのお話で、観光特区で外貨を稼ごうというのは、具体的にいい方法だろうと思います。

それから、中部のビジョンとしては4番目の、まんなかの優位性を生かす交流拠点整備、東西・南北の軸をさらに強化をしようという交流拠点整備が重視されました。それ以外に、1番の国際競争力を強化していくような方向。それから、7番の災害に強い安心・安全の地域づくり。3番の東海環状都市、環伊勢湾の広域の交流を大事にしよう。そういうところが重視されています。

それでは、この討論会の傍聴者の方もお発言をお願いします。

聴講者 道路整備等の交通アクセスが整備され、この地域が日帰り圏になったときに、観光客に宿泊していただくためには、どのような受け入れ態勢を整備したら良いとお考えか、パネラーの方にお聞きしたい。

今村 実は、新幹線の誘致活動の中で考えていることですが、速く来ていただいてゆっくり過ごしていただく。外宮を産業神、内宮を日本の心と捉えた時に、産業界では、昔から早朝参拝の風習があります。これを生かしながら、街を歩いていただくということを考えております。そして、日帰りで帰るということは、点としか観光地を見ていないということだと思います。これを面として考えていただくと、人が流れて、人が歩く、そして、1泊していただいてぜひ歴史の中の物語に触れていただきたい。そしてた、京都、奈良へも回っていただいてもいいのではないかな。

聴講者 三重県は、桑名市から紀伊半島の新宮まで南北に長い。その辺を、将来的にどの様に連携させるか。地域の特性が異なっており、大きな枠で進めることは難しいと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

渡辺 分散型の地域になっている。こういう地域の結びつき方をどうするかということについてのご意見をいただきたいということですが、いかがですか。

聴講者 これだけ長いと地域の考え方も地形も地質も違うという中で、三重県全体が元気になるためには、具体的に地域の産業を起こす、にぎわいを起こすことが必要です。道路のネットワークはあるのですが、それを地域がどう受け止めるか、あるいは、地域で何ができるかということを考えなければ、せっかく道路を整備しても地域全体が活性化しないのではないかな。特色を生かした地域づくりを考えた場合、紀伊半島を一つと捉えるのか、あるいは地域ごとに捉えるのかによって大きく違ってくると思います。何か良いアイデアがあればお聞きしたい。

寺本 確かに南北に長いので、一律に考えるのは難しいのではないかな。それぞれ地域的な特性が色濃いから、それぞれの特色をさらに磨くという方向が良いのではないかな。実は、今年の9月に中秋の名月の頃に志摩の月おいしいという企画を志摩観光ホテルで実施しました。志摩の地域の人が100名ほど集まり、食事と飲み物で6,000円をいただき、天体望遠鏡を庭に据えて月の観察をしました。名古屋の大学の天文の先生に来ていただき、ピアノとバイオリンとチェロのソリストの先生方も呼んで、また色の専門家の方にも色の話を会場ですていただきました。講演者費用や演奏料は無料で来ていただきます。私たちは、おいしい食べ物と宿泊所と志摩の観光案内を提供し、その代わり、文化、芸術、演奏に触れさせていただく。対価交換みたいな話をしましたところ、気持ちよく受けていただきました。我々は、こういう企画を1年に1回ではなくて、真珠婚とか灯台とか地域と関連づけて毎月何かどこかで都会の人との交流を催すことができないかなと考えています。

高島 松阪市内でMC ネットというのを立ち上げました。松阪には、環境、福祉、まちづくり等の団体が大きなものだけで200以上あります。それぞれが個別に活動するよりも、協力し合う方が良いだろうという発想で、ボランティアやNPO団体の連絡網を作り、松阪シティネットという

名前で呼んでいます。

まちづくりでイベントなどをする場合、絶対自分たちが楽しまなければ長続きしません。また、自分たちが楽しめるイベントならば、人も集まってくれます。みんなが見たい、寄ってきたい、一緒に参加したいというイベントを、まちづくり、市づくり、国づくりに繋げればよいと思います。

また、インフラ整備については、自分たちのいいところを勉強して、自分たちが住みたいという街を作れば、自然に住む人も増えると思います。

但し、ひとつ重要なことはリピーターを作るということです。魅力が無ければリピーターは絶対に来ません。人から見せて欲しいと言われるような、そんな国づくりをする必要があると思います。

奥山 私は、相手を思いやる気持ちを持ってできるかということだと思います。必要なのは、たとえば伊勢志摩に来たお客さんに、紀州を紹介するという気持ちなんですね。逆に紀州の人は大阪、伊勢を紹介するという人間関係が、全体に一番活性化するのではないかと思います。

渡辺 最後に私の方で簡単にまとめて、閉会にしたいと思います。

2つのことを申し上げたいと思います。1つは、それぞれの地域が誇りを持って光らせる。歴史とか文化とか自然の環境に磨きをかける。そうでなければすべては始まらないと思います。

もう1点、このまんなかビジョンは国土交通省がインフラ整備に責任を持つ感じがあって、どうしていったらいいのかという問いかけです。今までは放っておいても、道路整備何カ年計画というような形で進んでいたわけです。しかし、そういう時代はもう終わったと考えなくてはならない。であれば、道路や交通機関は何のために作るのか、何ために必要なのかということを考えなくてははいけない。それがすべてだと思います。

だから、地域の方々は、何のために新幹線が必要なのか、何のために高速道路が必要なのかを考える必要がある。訪れる人が、早く来て早く帰る、一回来たら二度と来ないというような地域ではいけない。滞留時間が長くなるような、そしてお金も落としてくれるような、そういう光る地域を整備することで、早く来ることのできる交通機関や道路整備によってさらに魅力が増し、地域が生き生きと活性化していく、そして、子供たちが誇りを持てるようになることが大切だと思います。

そのためには、自然環境を大事にした、自然環境と調和するような形のインフラ整備が非常に望まれることではないだろうか。その場合、この歴史的な環境にマッチした道のあり方、港のあり方が醸し出す雰囲気づくり、これが総合的に大事だ。それが評価されることになろうかと思います。

従って、最初に計画があって、それをどうしようかという話ではなく、計画づくりの中に地域の味付けとかデザインとか意味づけ、あるいは勉強の成果が生きていくというような、みんなで作り上げていくコラボレーション型の整備が求められる時代になってきた。そのためには、地域の皆さんが日頃からワイワイガヤガヤ、にぎわい会議という形で知恵を発信する。そういうことが必要だということになろうかと思います。

司会 渡辺先生ありがとうございました。それでは、ビジョン討論会の閉会の挨拶を、主催者を代表して中部運輸局の武田企画課長からお願いします。

武田 企画課長の武田です。今日は、コーディネーターに渡辺先生に来ていただき、また普段から大変活発に活動されている方々を発表者にお迎えでき、非常に意識の高い議論を聞かせていただいたと思っております。

ここでの議論は、すべてホームページなどでも公表いたしますし、まんなかビジョンをさらに練り上げていく中で当然織り交ぜていく話だと思っております。私ども国の機関ではありますが、地方にいる立場として住んでいらっしゃる方の意見を一番大事に、運輸局と整備局が力を合わせて総合的なインフラ整備を進めて参ります。また、先ほど先生から、コラボレーションというお言葉がありました。中部地域には、伊勢という地域、三重という地域など、いろいろなレベルがありますが、そのレベルレベルで一緒に進めて参りたいと思っております。

本日は、いろいろご議論いただき本当にありがとうございました。これを今後の政策に反映させていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。閉会ということで最後の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

司会 これをもちまして、まんなかビジョン討論会を終了させていただきます。

以上